

学校の屋上で電気をつくる？！

 SDGsラジオを読んでみよう！

みなさんの学校の屋上には、何がありますか？

神奈川県横浜市のいくつかの学校の屋上では、なんと、電気がつくられているんです！

まちや住まいをつくる会社「東急不動産」と、地球にやさしいエネルギーをつくる会社「ReENE(リエネ)」は、横浜市内の22の学校の屋上に、太陽の光で電気をつくる機械「太陽光パネル」を置いて電気をつくっています。

太陽の光から電気をつくるときには、地球温暖化を進めてしまう「二酸化炭素」が出ないため、地球にやさしいんですよ。

屋上でつくられた電気はまず学校内で使われ、余った分は、まちにとどけられます。

つまり、学校でつくった地球にやさしい電気が、まち全体に広がっていき、それが地球を守ることにつながっていくんです。

ほかにも、地球にやさしいエネルギーがいっぱいあります。

ぜひみんなで、調べてみてくださいね。

 SDGsラジオの内容を、もっと詳しく知ろう！

画像参照：たくさんの太陽光パネルが並んでいるようす
(東急不動産株式会社公式HPより)

太陽の光で電気をつくる「太陽光発電」は、地球温暖化の原因となる二酸化炭素を出さないため、「地球にやさしい発電方法」として知られています。さらに、「蓄電池」と組み合わせれば、夜や雨の日など太陽の光が足りないときでも安心して電気を使うことができます。建物の屋根の上に太陽光パネルを置いたり、山のひらけた場所にパネルをならべたりと、太陽光発電は日本中のさまざまな場所で広がり、その地球へのやさしさから大きな注目を集めています。



画像参照：建物の屋上に置かれた太陽光パネル
(東急不動産株式会社公式HPより)

まちや住まいをつくる会社「東急不動産」と、地球にやさしいエネルギーをつくる会社「ReENE(リエネ)」は、横浜市内の市立学校22校の屋上に太陽光パネルを設置し、そこでつくった電気を学校で使っています。余った電気はまちにおくられ、地域のいろいろな場所で役立てられています。また、地震や台風などで停電が起きたときのために、蓄電池に電気をためておく工夫もされています。学校と地域が協力して、自然の力でつくった電気でまちを支えるこの取り組みは、「未来のくらしをよりよくするエネルギーの新たな使い方」として、これからますます広がっていきそうです。

 キーワード

地球温暖化

地球の気温が少しづつ上がっていくことです。二酸化炭素などが増えると、地球に熱がたまりやすくなり、暑い日が増えたり、大雨がふりやすくなったりします。

蓄電池

電気をためておくための大きな電池のことです。太陽の光がない夜や雨の日でも、ためておいた電気を取り出して使うことができます。

太陽光パネル

太陽の光を集めて電気に変える板のような装置です。建物の屋根や山のひらけた場所などに置かれます。

 対象ゴール

みなさんにできること！

「地球にやさしい発電方法」は太陽光発電のほかに、どんなものがあるか調べてみましょう。

- 太陽光発電は、二酸化炭素を出さない「地球にやさしい発電方法」。
- 東急不動産はReENE(リエネ)といっしょに、横浜市内にある22校の学校の屋上に太陽光パネルを置いて、電気をつくっている。
- 学校の屋上でつくった電気は地域のためにも使われている。

メモ



SDGs ラジオ